

持続可能な開発目標(SDGs)が目指すジェンダー平等と女性・少女のエンパワメントの実現に向けて

理事・国連女性の地位委員会日本代表 田中由美子

■SDGsは世界の国のグローバル目標

2015年9月、国連本部で開催された国連持続可能な開発サミットにおいて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そのなかで、2030年までに達成しなければならない17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が掲げられました。これらの目標は、先行したミレニアム開発目標(MDGs, 2000～2015年)の成果を踏まえて設置されました。

ジェンダー平等と女性のエンパワメントは、MDGsでは第3番目のゴールでしたが、それは開発途上国の教育や政治におけるジェンダー格差の是正という狭い目標でした。しかし、SDGsでは、開発途上国のみならず、先進国自身も取り組むべきグローバルな課題として目標が設定されました。ジェンダー平等と女性・少女のエンパワメントは、SDGsの第5番目のゴールとして明記され、そこでは、①あらゆる場所における全ての形態の差別の撤廃、②私的・公的な場における女性・少女に対するあらゆる形態の暴力の撤廃、③児童婚、早すぎる結婚、強制婚の廃止、④公共インフラ、社会保障制度の提供、及び無報酬の育児・介護や家事労働の認識・評価、⑤政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定における平等かつ効果的な女性の参画及びリーダーシップ、⑥国際人口・開発会議(ICPD)の行動計画及び北京行動綱領などに基づく、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的アクセスの確保、など幅広いジェンダー課題への対応を求めています。さらに、これらを達成するために、女性の経済的資源、土地や財産、金融サービスなどへのアクセスを可能にすること、女性の能力向上のためにICTを活用すること、ジェンダー平等推進のために拘束力ある法律や政策を推進することなどが明記されています。

■誰も取り残さない開発を目指して

SDGsのもう一つの大きな特徴は、「だれも取り残さない(leave no one behind)」という社会の実現を目指し、経済・社会・環境などを巡る広範な課題に対して包括的なアプローチをとることを推奨していることです。そのためには、ジェンダー平等と女性・少女のエンパワメントは、第5目標のみで達成する課題ではなく、他の16目標の全てにおいても複合的に取り組まなければならない課題だと明記しています。

SDGsの目標は、貧困、飢餓、保健、教育、水・衛生、エネルギー、経済成長と雇用、インフラ・産業化、各国間の不平等、都市と居住、生産と消費、気候変動、海洋資源、生物多様性、平和など多岐にわたりますが、これらの目標の達成には、政策策定から草の根レベルま



で、ジェンダー視点に立った取組、および女性や多様な人々が声を上げ、積極的に参画することが不可欠です。誰も取り残さないためには、当事者の声が反映された政策や計画作り、合意形成が求められるのです。

■アクションプランと達成度を測るための共通の指標の設定

日本を含め、多くの国ではSDGsの目標を実現するためにアクションプランが作成されています。しかし、その内容を精査してみると、ジェンダー平等と女性・少女のエンパワメントの視点が、第5目標以外では、すっぽり抜け落ちてしまっていることが散見されます。女性も男性も、障害のある人も、社会的マイノリティも、全ての人が生きやすい、持続的な社会を作るためには、全ての目標について、ジェンダーの視点に立って、そして多様性を尊重して取り組んでいくことが急務です。

SDGsの進捗を測定するためには、共通の「指標」が必要です。国連総会は国連統計委員会に指標を検討するよう要請し、その結果2017年7月の国連総会において、全244(重複を除くと232)の指標が採択されました。日本では、総務省が内閣官房に設置された「持続可能な開発目標(SDGs)推進本部」と協力しながら、指標に関する国内関係機関の意見を取りまとめ、国連統計委員会やSDG指標に関する機関間専門家グループ(IAEG-SDGs)と連携し、指標に対する日本のデータを整備・報告するための検討を進めています^{注1}。但し、災害統計や感染症などを初めとして、多くの指標が必ずしも性別、年齢別、障害状況、少数民族、その他の社会的属性別になっているわけではなく、さらなる検討が必要です。

■ジェンダー平等とエンパワメントはすべての人の責任と協力で

ムランボ=ヌカカUN Women事務局長は、「SDGsの中心に女性を据え、ジェンダー不平等を根絶することは全ての人の責任である」と言います。SDGsの目標達成に向けて、国連ウィメン日本協会でも多様な活動を推進してまいります。皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

^{注1} 出典：総務省ホームページ (http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/kokusai/02toukatsu01_04000212.html)

UN Womenの人道支援プログラム ～アジアの支援現場から～

世界で1億1200万人といわれている難民たち。UN Womenは、人道危機下にある、特に女性と少女たちに対して、ジェンダーと女性のエンパワーメントの視点から、さまざまな活動に取り組んでいます。ヨルダンのザータリキャンプに次いで、今回は、アジアでの活動を、バングラデシュに逃れたロヒンギアの難民キャンプの状況を通してお伝えします。

バングラデシュ・コックスバザール地域におけるロヒンギア難民女性の支援

UN Womenバングラデシュ事務所長 石川 祥子

2017年8月25日にミャンマー軍の攻撃を逃れるためにロヒンギアの人々が国境を越えてバングラデシュへの流入をはじめてからすでに7か月が過ぎました。今日までに命がけで避難してきたロヒンギアは671,000人以上にのぼり、そのうちの51%を女性が占めています。ロヒンギア迫害の歴史は1970年代にさかのぼり、8月以前に逃避した人々を含めるとバングラデシュ国境沿いのコックスバザール地域は約100万人のロヒンギアを吸収し、現在世界最大の難民キャンプと化しています。

逃れてきたロヒンギア女性の非常に多くはミャンマー軍から性暴力に遭い、また家族や隣人が殺害されるのを目の当たりにして大きなトラウマを抱えています。その上夫を殺され、子どもを一人で抱えている女性が難民の16%に上っています。またロヒンギアはもともと保守的な社会文化的規範が強く、思春期を迎えた女性が家の外に出ることはひどく制限されているため、食料や物資配給、保健衛生などの情報とサービスをこれらの女性に提供するには多くの障害があります。このためロヒンギア女性がこれ以上脆弱な立場に置かれないよう確実に支援を届けるには今までになく女性の視点に立った援助が不可欠となっています。



このような状況の中、UN Womenは2017年11月から最も支援を必要とする難民女性、特に女性世帯主と青年期の女子を中心に支援を開始し、女性が必要とする生理用品やテントの中で燃やしても煙の出にくい調理用の固形燃料など緊急物資の配布を6千人以上に行ったのをはじめ、2018年1月末には難民女性のエンパワーメント活動の拠点となる多目的女性センターを開設しました。センターは、テントに引きこもりがちな女性達が安心して集うことができる憩いの場を提供するほか、カウンセラーと保健婦が心身のケアをサポートし、ミャンマーで教育の機会がほとんど得られなかった女性達の生活能力向上のために栄養、保健衛生、そして蔓延する様々な女性に対する暴力に関する講習も提供し、3月末までに1026人の女性がセンターを利用しました。

このほか人身売買や性的搾取の標的とならないよう若い女性の経済的自立を支援することが現在緊急の課題となっており、UN Womenは難民女性の技術訓練も開始し、現在までに以前ミシンを使ったことも自分で収入を得たこともな

かった女性90人が縫製コースを修了しました。UN Womenはトレーニングを受けた女性達が安定した収入を得られるよう支援物資に衣料品を必要としている様々な団体と女性達の作った縫製品の買取りを現在調整中で、今回の日本協会からのご支援で我々はこのようなセンターの活動を2018年末まで継続することを出来るようになりました。

今後は人道支援活動やキャンプの運営に女性の意見がよりよく反映されるよう、難民女性とキャンプリーダーのが対話できる環境づくり、

そして女性のリーダーシップ育成にも力を入れて行く予定です。



2017年度拠出先報告～ロヒンギャ難民支援キャンプなど

国連ウィメン日本協会2017年度拠出金総額は3,566,038円(32,433.27ドル)となりました。ご寄付にご協力いただいた方々、本当にありがとうございました。

拠出金は、ニューヨークのUN Women本部に2018年5月に送金いたしました。拠出先は次の通りです。

- ①バングラデシュのロヒンギャ難民女性・少女支援プロジェクト 2,566,038円 (23,338.23ドル)
UN Womenは、バングラデシュ・コックスバザール地

域で、ロヒンギャ難民女性・少女とホストコミュニティ支援プロジェクトを行っています。ロヒンギャの女性たちが、バングラデシュの地域でうまく受け入れられ、生活できるよう支援に取り組んでいます。

- ②UN Women本部へ 1,000,000円(9,095.04ドル)
UN Women本部が世界各地で活動するための資金になります。

応援メッセージ

ファンドレイジングのために“フレンド”レイジングを。

株式会社シン・ファンドレイジングパートナーズ
河内山 信一

震災を機に広告代理店を辞め、2012年10月にファンドレイジングを基本としたNPOコンサルティング会社である株式会社シン・ファンドレイジングパートナーズを設立し、日々様々なNPOの活動のお手伝いをしています。

ファンドレイジングとは、NPOが行う寄付や会費、助成金なども含む資金調達全般のことを指します。NPO活動には資金が必要ですが、その活動の受益者から、必ずしもお金を受け取ることができるとは限りません。例えば、貧困家庭の支援を行うNPOが、その対象者からお金を受け取っては本末転倒です。そこでNPOは活動資金のために、個人や法人、政府などから活動資金を調達します。これをファンドレイジングと呼び、NPO団体の資金調達活動担当者をファンドレイザーと呼びます。ファンドレイザーは、NPO団体の活動や目的を正しく世の中に伝え、理解や共感を得て、そのNPO団体の支援者を増やす仕事になります。世の中を分析するマーケティング能力、伝える広報能力や支援者対応やイベント運営などのコミュニケーション能力、団体内外の人との協調性、その人自身の人柄などが問われます。さらに、NPOやファンドレイジングをはじめ、世の中の情報に対する高いアンテナや、状況把握能力、周りを巻き込む行動力なども求められます。

さて女性支援活動でのファンドレイジングですが、漠然としたテーマで訴えたのでは支援はなかなか集まりません。具体的に、何をするのか、それがどう有効なのか、それにはいくらかかるのか、誰が笑顔になるのか、などを明確にすることが必要です。具体的なデータや資料があると一番いいのですが、「自分はなぜこの支援をしているのか」と言う自問自答することも有効です。自分は何に心を動かされ、何を知ることによって団体を支援しようと思ったのかを事例にして、自分と同じように他の人に伝えることができれば支援者は増えるでしょう。そもそもNPOの活動の本質は団体が単独で社会の問題解決に取り組むことではなく、その活動を通じて社会的な課題を人々に知らせて、みんなで社会をより良くしていくことです。支援する仲間を集める「フレンドレイジング」から始めてみましょう。



国連ウィメン日本協会の活動 クラウドファンディングに初めて挑戦

理事 高橋 克子

広く社会から寄付を集める方法の一つにクラウドファンディングがあります。インターネット上で、寄付の目的・趣旨に賛同する方々から寄付を募る仕組みです。当協会も新しい試みとして、クラウドファンディング専門チャンネル「Readyfor」に4月27日から約40日間参加しました。目的は「ザータリ難民キャンプで苦しむシリア人女性を救済したい」。混迷を深めるシリアから、隣国ヨルダンのザータリ難民キャンプに逃れてきた女性たちの自立と生活再建に、UN Womenが力を入れています。その活動に役立てていただきたいと、寄付を募集いたしました。

「Readyfor」は毎日多数の寄付募集の呼びかけが掲載される超激戦サイトです。公開初日の朝、「Readyfor」トップページに掲載されてほっとしたのもつかの間、午後には、他の「NEW」と共に「その他のNEW」画面に移動して、アクセスされにくい、探されにくい状況になっていました。しかも、目標額に達成しないと寄付は成立しない仕組みです。

クラウドファンディングの周知にメールマガジンを数回発行してPRに努めた結果、おかげさまで目標額30万円以上の383,000円に達しました。寄付金は諸経費を除いて8月にUN Women本部に送金し、さらにザータリ難民キャンプに届けられる予定です。

皆様からのご協力に深く感謝いたします。



Readyforのプロジェクト画面

ニューヨークUN Women国内委員会 ミーティングに参加して

理事 本田 敏江

3月14日、UN Women本部で国内委員会の全体会合が開催されました。今回の一番大きな議題は承認協定の改定でした。承認協定本体は前より短くなったもののこれに付随して隔年パートナー協定、プロジェクトファンディング協定があり、さらに膨大なワーキングドキュメントがついています。新協定の趣旨はUN Womenが国内委員会をパートナーとして再認識することです。そのため国内委員会への期待も高く、特にファンドレイジングでは活動を詳しく報告することが求められています。各国の反応は全体的には前向きでした。ドイツ国内委員会からは「いままでの“You”と“I”の関係からパートナーとしての“We”が強調されているところが評価できる」という意見も出ました。

今回の新しい動きとしては本部がUN Womenのプロジェクトサイトへのフィールドトリップ実施にとっても前向きな意向を表明したことでした。既にレイキャビク国内委員会で報告がありましたが、アイスランドとオーストリア国内委員会はヨルダンのザータリキャンプを訪ね、UN Womenの人道支援プログラム、特にシリア難民女性支援の様子を見学してきています。ことにアイスランドは大統領夫人など有名人が参加したため、メディアでも大きく取り上げられ、ファンドレイジングにも貢献しました。今年の国内委員会ミーティングはオーストラリア主催で、フィジーで開催されている自然災害復興支援プログラムサイトを訪ねます。本部はこのようなツアーを実施することで参加者にプログラムに直接にかかわっているという意識を持ってもらえるかと期待しています。



各国内委員会が熱心に討議している様子



全員集合

UN Womenのファンドレイジングコンサルタントによるセッションも毎回行われます。現在アイスランド、フィンランド、オーストラリアなど活動が活発で、拠出金の増加が見込まれる国内委員会には本部が投資を始めています。そしてその投資が順調に成果をあげているという発表がありました。各国国内委員会が新しいやり方でファンドレイジングに取り組んでいることを垣間見て、日本協会も今までの活動をそのまま踏襲しているだけでは済まなくなっていることを感じました。

総会報告

2018年2月24日（土）11時から12時30分、婦選会館にて2018年度総会を開催し、2017年度の事業報告・決算、2018年度事業計画・予算が承認されました。

次いで協力協定団体ネットワーク会議を開催。参加6団体から2017年度の活動報告がありました。日本協会へ募金箱配布の要請があり了承されました。

決算報告

国連ウィメン日本協会 2017年度決算報告
(2017年1月1日～12月31日) 単位:円

一般会計

■収入の部		■支出の部	
会費収入	2,880,000	拠出金	3,566,038
寄付金収入	6,466,150	事業費	33,642,513
資生堂と本部との事業	30,000,000	管理費	1,870,955
雑収入	48		
当期収入合計	39,346,198	当期支出合計	39,079,506
その他の資金			
■収入の部			
利息	23		

当期正味財産増減額 266,715
前期繰越正味財産額 8,306,295
次期繰越正味財産額 8,573,010

シンポジウム開催のお知らせ 『魔女の宅急便』作者、角野栄子氏が基調講演

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画事業

日時：12月1日（土）午後
会場：津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス
（東京都渋谷区千駄ヶ谷）

タイトル：女性・少女の未来を拓く
—『魔女の宅急便』キキの魅力と「自己肯定感」—（仮）

諸外国に比べて低いといわれる日本の若者の「自己肯定感」。それを育み高めるヒントは？

基調講演には、2018年度国際アンデルセン賞作家賞に輝いた角野栄子氏をお迎えし、『魔女の宅急便』の主人公キキに託した女性の成長へのメッセージを伺います。しなやかな心と果敢な行動力にあふれるキキが織りなすエピソードには、自己肯定感を育むさまざまなヒントが詰まっているのではないのでしょうか。

また鼎談では、女性が時として抱える生きにくさ、心理的葛藤などをいかに乗り越え、自己肯定感を高めていけるのか、パネリストの方々の豊富な経験から語っていただきます。

パネリスト：

坂東眞理子氏（昭和女子大学理事長）
海原純子氏（医学博士・心療内科医）
松本晃氏（カルビー株式会社前代表取締役会長兼CEO）

○詳細が決まり次第、チラシやホームページでお知らせします。

承認協定の改定について

国連ウィメン日本協会は、UN Women本部と承認協定を結ぶことで、1国に1団体のみ認められている国内委員会です。

この承認協定を改定する方針であることが本部から示され、3月上旬に改定案が提示されました。

国内委員会をパートナーと位置付けること、ファンドレイジングに関する規定が詳細になったことなどが主な変更点です。

当協会では、日本語訳を作成して、国内法との整合性を含め、内容を詳しく検討しているところです。改定承認協定は、来年度から適用される予定です。

協力協定団体の活動

国連ウィメン日本協会 北九州

4月28日(土)、北九州市男女共同参画センタームーブにおいて、国連ウィメン日本協会北九州の総会を開催し、2017年度の事業報告及び決算報告、2018年度の事業計画及び予算が承認されました。

総会後には、当会の三隅佳子会長が講師となり、「SDGsと国連ウィメン日本協会」と題して講演&ワークショップを行いました。

ワークショップでは、SDGs 17のゴールをカードにしたものを使って、自分達の日々の活動がそれぞれのゴールに繋がるのか、グループに分かれて熱心に話し合い、SDGsと自分達の関わりを確認しました。

事務局 鷹取典子



国連ウィメン日本協会 大阪

3月24日(土)、クレオ大阪中央にて、国連ウィメン日本協会大阪の総会を開催し、2017年度事業報告及び決算報告と、2018年度事業計画及び予算の提案があり、それぞれ承認されました。

総会では、昨年度の事業報告や、これからの国連ウィメン日本協会大阪の活動などについて、会員の皆さまと意見交換を行いました。総会後には、DVD(『地域ぐるみで女性・少女に対する暴力にNO! ~ベトナム ダナン市の取り組み~』)の上映をし、三輪会長より、ダナンにおける暴力根絶支援の事例を紹介しました。

また、今年は役員の改選もあり、新役員理事の紹介後、会員同士、和やかな交流の時間を過ごしました。今年度は6月23日(土)クレオ大阪中央にて、UNWomen日本事務所 所長の石川雅恵さんをお招きして、シンポジウムを開催しました。SDGs達成に向けた国際社会の最新状況を学ぶ大変貴重な機会となりました。

事務局 長栄くみ子



国連ウィメン日本協会 多摩

2月18日、事務所のある昭島市で、総会を持ちました。

今年は役員改選の年でもあり、事前にお問い合わせの方々全員が承認されました。また、全ての案件が承認され、新たな役員で出発です。

総会後は、会員以外の方々にも参加して頂き、JIBO&AKIによるチャリティコンサートを行いました。1部には映画音楽、2部には昭和の歌を演奏、会場と一緒に歌う場面もありました。

その後の役員会で、今年度のイベントの内容や時期についての検討を行いました。他団体との共催事業の検討も行いました。

会員からの「こんなことができるが、何かお役に立てませんか?」という嬉しい申し出があったり、新会員も増えたり、と良い出発ができました。

代表 小川裕未



国連ウィメン日本協会 よこはま

2月、男女共同参画センター横浜にて総会が開かれ、議案と役員改選が承認されました。

恒例のバザーとランチの後、本田日本協会理事からレイキャビクで開催されたUN Women国内委員会会議報告を聞きました。

3月の国際女性デーイベントは「自立への夢をつな

ぐ」をテーマに、ペーパーミラクルズ代表の高垣絵里さんを迎えて、パキスタンの女性の現状と未来について語ってもらいました。講演後は地元の美容院にヘアメイクのご協力いただき、高垣さんのパキスタン民族衣装のファッションショーと出店協力団体の手作りファッションショーが続きました。

初めてとなる参加型イベントはチャレンジでしたが、あたたかい拍手と笑顔に包まれました。

会長 増岡啓子



国連ウィメン日本協会 東京

国連ウィメン日本協会東京では2018年度総会で、規約一部改正、新役員の承認、455,735円の拠出金の報告をしました。

総会記念講演では、織田由紀子JAWW副代表(SDGs市民ネットワークジェンダーユニット共同世話人)より、「SDGsについて学ぶ—私たちはどう進めていくか」をテーマにご講演頂きました。すべての目標にジェンダーの視点をシステムティックに主流化することが明記されている、情緒的な取り組み姿勢でなく、仕組みの中にジェンダーの視点をどう取り入れて行くか。日本のSDGs推進本部が掲げた3つの柱に、「次世代や女性のエンパワーメント」がある。今後はジェンダー問題解決にSDGsをどう活用するか、ジェンダーの視点によるウォッチが重要と述べられました。



国連ウィメン日本協会 さくら

私たちは、正会員である一冊の会と共に、国連の流れに沿って啓発活動に取り組んで参りました。世界人権宣言から70周年の今年、国際人権を尊重し、国際平和を築く為に世界のリーダーとして生涯を掛けて活動されている元国連大学事務局長の伊勢桃代先生の講演会を3月17日、憲政記念館会議室で開催いたしました。

国連憲章を最高の形で次世代に渡す大事な使命を感じ、次世代の教育、育成に命を注ぎ込んだ伊勢先生。『人民の』という言葉から始まる国連憲章を代表するように、もっと『民』の力=NPOやNGO団体が政治や社会に積極的に関わることが重要性と。

これからの社会は女性の力が必要不可欠であり、男性、女性、政府、地域、民間、NPO/NGOが皆連携をし、手を取り合っていくことが大切だと皆で学び合いました。国連で提唱している「SDGs」の取組に、一人でも多くの方が参画していくことを誓い合いました。

広報部 城杉清佳



協力協定団体のPR用アイテム

国連ウィメン日本協会は、日ごろから協力協定団体の素晴らしいご活動に感謝しております。このたび活動に活用いただくために、共通のPRアイテムを作成しました。



○バナー



○拠出金支援プロジェクト地図

○なお、募金箱も作成中です

事務局からの報告

■マンスリー寄付のお願い(個人の方のご寄付)

個人の方のご寄付では、インターネットを通じて、毎月定額を継続しての寄付(マンスリー寄付)ができます。一回手続きをしていただければ、毎月定額を継続して寄付していただくことができる仕組みです。

月額1,000円、2,000円、3,000円、5,000円の4つのコースから選ぶことができます。国連ウィメン日本協会ホームページからアクセスをお願いします。

◎マンスリー寄付、インターネット寄付はこちらからホームページの「カンパ決済」

<https://kessai.canpan.info/org/kokurenwomennihon/>



■賛助会員募集中

事務局へご連絡いただくかホームページでもお申込できます。

【年会費】個人 1口 5,000円

団体 1口 10,000円



■寄付者一覧(前回掲載以降2018.5.31現在)

国連ウィメン日本協会多摩 国連ウィメン日本協会大阪 国連ウィメン日本協会北九州 国連ウィメン日本協会さくら

(株)オズ・インターナショナル 彩歩の会 堺市女性団体協議会 (株)資生堂 全国友の会 BNPパリバ ブックオフコーポレーション(株) ブルーベル・ジャパン(株) (株)ポーラ・オルビスホールディングス ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング(株) 横浜ベイシェラトンホテルアンドタワーズ

池田路子 伊藤繁 岩井紘子 岩城淳子 岩崎雅美

上原正臣 遠藤久子 衛藤栄津子 大山行雄 岡島敦子 小野啓子 小野田賀寿美 北井久美子 黒瀬友佳子 後藤安子 小原泉 酒井真喜子 佐藤想子 宿乃懿鷺見八重子 出口律子 長野麗子 中山玲於奈 橋本ヒロ子 廣澤洋子 房野桂 星野利香 本田均平 本田敏江 藪内麻貴

■ブックオフ宅本便寄付(前回掲載以降2018.5.31現在)

ビザ・ワールドワイド・ジャパン(株) 伊藤芳子 後藤須磨子 田中悦子 東金久美子 中井尚子 山下菊栄

■(株)高島屋のユアチョイスギフトカタログによる寄付

■正会員団体16団体(2018.5.31現在)

(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 (公財)横浜市男女共同参画推進協会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国連ウィメン日本協会よこはま 国連ウィメン日本協会多摩 全国友の会 (株)高島屋 (公財)イオン1%クラブ 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会東京 国際ゾント26地区 (一社)大学女性協会

■正会員個人39名(前回掲載以降2018.5.31現在)

新規入会：高田順江

■賛助会員団体13団体(2018.5.31現在)

日本生活協同組合連合会政策企画部 にいがた女性会議 (公財)せんだい男女共同参画財団 久留米市男女平等推進センター 越谷ミズの会 (株)グッドバンカー (株)電通 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団 (株)リコー (株)フジテレビジョン 国際ゾント姫路ゾントクラブ (株)クロスメディア・ランゲージ NPO法人ウィメンズアイ

■賛助会員個人146名(前回掲載以降2018.5.31現在)

新規入会：若野真弓 池田悦子

<認定>NPO法人国連ウィメン日本協会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL.FAX. 045-869-6787

・E mail unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

